

## みんな仲良し

田辺 とよ子

今から 33 年前、脳性麻痺と視力障がいを持つ娘当時 11 才、母私 44 才の時も作文をださせて頂きました。娘は私が作文を書いた時の 44 才になりました。近所の小さい子ども達のふれあいの中から、これから先、51 億人の世界の人々にできるだけ多くふれあえることを喜びに生きていきたいと最後を結びました。その後どんな生き方ができたのかな。

盲学校を娘は 18 才で卒業し社会人になりましたが、なかなか行く所がありませんでした。障がい者の仲間のお母さんが、今行っている作業所（夢飛行）を紹介してくれました。そして面接に行き、どんな子も受け入れますよ、自立とは私達のことを受け入れてくれることなんですと話して下さいました。私は自立とはなんでも一人でできることだと思っていましたが、この考えは間違っていることに気がつきました。できないことをまわりの者が補ってできたら自立なんだと思えるようになりました。合格できて通所できることのあの喜びは今でも忘れることはありません。

夢飛行では、絵画（皆でビー玉をころがして作品を作ったり）、作った作品を交代で歯医者さんに届けに行っています。スタッフの方とペアを組んで先生に車いすダンスを習い、一年に一度発表会もあります。また旅行にも行き、パスポートを取って初めて飛行機に乗り韓国に行ってきました。今年は万博にも行きフランス館に入りました。行く時娘が「暑いなあ」と言ったら、通りすがりの方が「暑いねえ」と、また歌を歌っていると「うまいね」と声をかけてくれたようです。小さなふれあいがとても嬉しいことなんです。いろんな取り組みをして地域へのふれあいをしています。その中で、ワーキングホリデーの受け入れをしていて、いろんな国からスタッフの方が来ます。その方々の言葉を聞き、いつの頃からか娘は、意味はわかりませんが英語の発音で話をするのが得意になりました。以前日本語が話せない方が来て、娘が英語で話しかけていると聞き、行く機会があったので行ってみると言葉が通じているかのように英語でスタッフの方と話していました。とても楽しそうでした。最近もフランスの方の声を聞いただけで英語に切り替えるバイリンガルな展子さんですと連絡

がありました。また我が家でも娘の姉がアメリカの方と国際結婚をしたので、毎年夏になると子どもを地域の学校に入れるため2ヶ月ほど帰ってきます。皆が帰ってきた時、とくに義兄の声を聞くと娘は、「アイムソーリー、ハロー、OK」とか知っている単語をならべて、英語調で話しかけて迎え入れています。それに上手にこたえてくれるので嬉しそうにしゃべります。外国の方が日本語で話しかけても、娘の耳には違うように聞こえるのか英語の発音になります。夏の2ヶ月は我が家は英語がとびかう生活をしています。娘も仲間に入って英語調でしゃべり、時にはあっていることもあり、おもわず皆笑ってしまいます。それでもお母さんは娘のように英語調で話が出来ません。私には通訳が必要です。どこの国の方にも物怖じせずにコミュニケーションをとるのが大好きな娘に、どなたも心のこもった対応をして下さり感謝ですね。人の出会いによって大きなつながりの輪ができ、娘の心も豊かに成長させてくれています。

最後に娘は歌が大好きなのですが、その中のひとつハッピーバースデーも好きで、夢飛行で誕生日会があると歌いながら帰ってきます。いつも姉の家族、おじさん、おばさん、お友達にハッピーバースデーの歌を歌ってプレゼントしています。歌のあと「おめでとう」と言います。皆さんとても喜んで、すごいなあと言ってくれます。

これからもいっぱい歌って、おしゃべりして皆さんと喜んだり、楽しんだりできるように頑張ります。